

# 伊藤 キム

Kim ITOH

87年、舞踏家・古川あんに師事。95年「伊藤キム+輝く未来」を結成。96年バニョレ国際振付賞、02年第一回朝日舞台芸術賞・寺山修司賞。05～06年にバックパックを背負って半年間の世界一周の旅に出る。11年「輝く未来」を解散。13年京都・本能寺創建600年の記念イベント『本能寺のD』で演出・振付・出演、国内外をツアー。14年六本木アートナイト2014パレードの監修。他にも現役中高生との作品制作、おやじが踊って給仕する「おやじカフェ」のプロデュースを国内外で行う。青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム修了。京都造形芸術大学客員教授。2015年、新カンパニーGEROを結成して10年ぶりに創作活動を再開。横浜市神奈川区民文化センターかなっくホールレジデンスアーティスト。

所属カンパニー GERO

ホームページ <http://www.gero.kim>

在 住 地 神奈川県横浜市

出 身 地 愛知県知立市

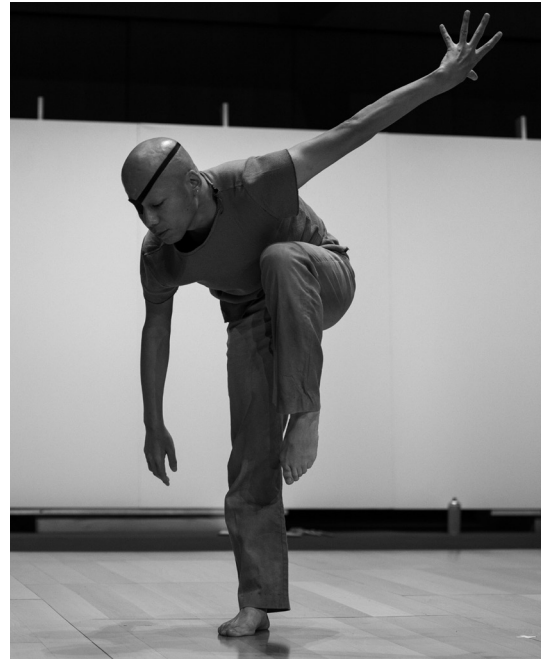


Photo:『本能寺のD』

## 活動歴・受賞歴

### ○活動歴

〈1995～2005年〉カンパニー「伊藤キム+輝く未来」で作品創作・国内外でツアー  
〈2007～11年〉名称を「輝く未来」に変え、キムは作らず若手メンバーが創作するスタイルに移行  
〈2012年〉展示型ダンス公演「go-on」演出・振付（京都造形芸術大学）  
〈2012年〉NBAバレエ団公演「むかしむかしあるところにわたしがいました」演出・振付  
〈2012年〉中高生が出演する「トバズニハ」の演出・振付（せたがや文化財団）  
〈2013年〉NHK東京児童合唱団作品「ハーメルンの笛吹き男」演出・振付  
〈2013年5月〉「本能寺のD」演出・振付・出演（京都・本能寺）  
〈2014年4月〉六本木アートナイトパレード監修  
〈2015年2月〉長野県大町市主催「大町冬期芸術大学」WSパフォーマンス演出・振付

〈2015年5月〉日本女子体育大学・ダンスプロデュース研究部「びちびちぶちぶらんらんらん'15」委嘱振付  
〈2016年1月〉GERO旗揚げ公演「くちからでる」構成・演出  
〈2016年1月〉高知GERO活動プロジェクト構成・演出  
〈2016年3月〉長野県大町市主催「大町冬期芸術大学」市民参加パフォーマンス 演出・振付

## ワークショップ

〈2000年〉「伊藤キム・レジデンス・ワークショップ」ダンス経験者を公募し、10日間で作品を創作・発表 主催：秋吉台国際芸術村（山口）  
〈2002年〉ジャズとダンスと子どもたち「飛ぶ教室」夏休みの小学校を舞台にダンス作品を構成。小学生60名参加。会場：蟹江小学校（愛知） 主催：2005演劇ネットワーク 他  
〈2003～16年〉伊藤キム+輝く未来作品「階段主義」カンパニーメンバーおよび各地で募集したダンサーによる「階段」を舞台にした公演。大阪、高知、兵庫、多摩、佐世保、広島、岩手で開催。

〈2007年〉「早朝ダンスワークショップ」対象：丸の内内で働く会社員 主催：丸の内朝大学（東京）  
〈2007年〉「ほっとほっと（横浜市旭区地域生活支援拠点）でのワークショップ」対象：自閉症患者 主催：横浜市芸術文化財団  
〈2007年～〉「学校ダンスジャック&ワークショップ」対象：小学校・中学校・高校 合計13校（横浜、前橋、北九州、愛知） 主催：トヨタ・子どもとアーティストの出会い 他  
〈2008年〉「老人ホーム入所者を対象にしたワークショップ」 主催：Dance City（イギリス）  
〈2008年～〉「おやじカフェ」公募で集まった中高年男性が数回のワークショップを経て給仕とダンスを身につけカフェにて披露するもの。東京、京都、北九州、広島、静岡、愛知県知立市シンガポールで開催。主催：フェスティバル/トーキョー 他  
〈2012年〉「働く人のためのダンスワークショップin安川電機」主催：北九州市芸術文化振興財団  
〈2014年〉「女性限定WS」キムの「お悩み相談室」

## 可能なワークショップ等のスタイル

### アウトリーチ

①「学校ダンスジャック～伊藤キムがやってきた！」  
昼食・給食の時間に伊藤キムが突然現れて校内でゲリラで踊りまくる。廊下を走る、教室に乱入する、運動場を走り回るなど。他のアーティストにはない強烈なインパクトで子どもたちに「非日常体験」をもたらす。午後のWSの前に行くとWSの進行がよりスムーズ。これまで小中高校で10回以上実施。

②「学校ワークショップ～遊びを通じて、考えながら動く」  
日常的な動きを題材に頭と身体の両方を使うことで子供たちに新たな気づきを促す。

※上記ダンスジャック及びワークショップは、福祉施設などでも実施可能。

▶参加適正人数：①全校生徒、②5～80名  
▶アシスタントの有無：1名必要

▶1日の実施可能回数・時間：①1回、②2コマ ※1コマ45分  
▶必要機材等：①音楽など必要なし。②ipodを接続できる音響プレーヤー、ピンマイク  
▶場所：①は会議室から体育館まで対応可能  
▶その他：ワークショップのみの実施も可能

### 公募ワークショップ

①一般ワークショップ  
年齢・性別・経験不問。

### ②女性限定ワークショップ

過去の例：衣装を持ち寄って変身体験。過去の参加者のアンケートより「男性がいないから雰囲気がいい」

### ③男性限定ワークショップ

過去の例：後半は街頭に出て踊りながら街を練り歩く。参加者アンケートより「女性がいないから思い切りバカになれる」

### ④演奏家対象ワークショップ

クラシック音楽の奏者が対象。呼吸や重心を意識することで演奏をより豊かにする。後半でダンサーとのコラボメニューもあり。参加者アンケートより「普段気づけない身体」の「芯」を感じることができた

### ⑤親子でワークショップ

音楽に合わせて思い切り動いてはしゃいだり、普段家庭ではできない身体の触れ合い遊びやコミュニケーションを実践。

▶参加適正人数：5～20名程度  
▶アシスタントの有無：1名  
▶1日の実施可能回数・時間：3コマ ※1コマ90分  
▶必要機材等：iPodを接続できる音響プレーヤー

## この事業で可能な公演スタイル

### レパートリー作品

#### 『病める舞姫』（ソロ作品）

題材は舞踏の始祖・土方巽の著作『病める舞姫』。地を這いながら空中を漂うような一筋縄ではいかない言葉たちに出会い、格闘し、フラレて、すがりついて、引きずり回される。シャーマン&語り部となって、日常と非日常のはざままでとどなく続く言葉と身体との追いかっけこそを先導する。初演2018年日暮里d-倉庫。2020年2月横浜・かな

つくホールで再演。2021年3月に愛知、京都、6月にパリをツアー予定。

▶上演時間：60分  
▶演出・振付・出演：伊藤キム  
▶使用する会場、床の状態、スタッフは要相談

### 市民参加作品

上演するホール・場所の特性を生かし、かつ地域の事情

も踏まえ、ホール担当者の意見を伺いつつ「どんな人たちをどんな場所まで連れていくのか?」といったことを考慮して作品イメージやタイトルなどを考えていく。その地域の音楽家や美術家など、地元アーティストとのコラボも視野に入れたい。

▶出演者数：伊藤キム、GEROメンバーアシスタント兼任1～2名  
▶同行スタッフ：舞台監督1名